

放課後等デイサービス だいち鹿嶋事業所 支援プログラム

健康・生活

☆ねらい☆

- ・健康状態の維持、改善
- ・生活のリズムや生活習慣の形成
- ・基本的生活スキルの獲得

☆具体的な支援内容☆

- ・健康状態の把握

→健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態のチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。利用中に体調の変化がある場合には適切な対処(例：医療機関への受診、保護者への状況の報告等)を行う。

- ・健康の増進

→睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。長時間の利用となる場合には、昼食を利用し食育を実践する。なお、子どもの障害特性として、口腔内機能・感覚等に配慮することや、摂食時の姿勢の調整および自助具等に関する支援を行う。また、家庭での食事に関しても適時必要な評価を実施し支援の提案を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。

- ・リハビリテーションの実施

→日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもの適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。子どもの障害特性に応じて必要な個別のリハビリテーションを提供する。

- ・基本的生活スキルの獲得

→身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。一対一での対応を基本とし視覚情報の提示(例：イラスト等)など子どもの障害特性に合わせた指導を実践する。

- ・構造化等により生活環境を整える

→生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。TEACCHプログラムを参考に子どもの特性に合わせた環境面からのアプローチを実践する。

【プログラム例】

- ・日常生活動作に関わる支援（手洗い指導、トイレトレーニング、着替え等）
- ・持ち物管理
- ・食事の支援、マナーなど

運動・感覚

☆ねらい☆

- 姿勢と運動、動作の向上
- 姿勢と運動、動作の補助的手段の活用
- 保有する感覚の総合的な活用

☆具体的な支援内容☆

- 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
→日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。
- 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
→姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。
- 身体の移動能力の向上
→子どもの障害特性に合わせて自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。
- 保有する感覚の活用
→子どもの発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるような遊び等を通して支援を行う。
- 感覚の補助及び代行手段の活用
→保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。
- 感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応
→感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。

【プログラム例】

- 体操やダンス、ストレッチ、ウォーキング
- 食具やはさみなどの道具を用いた支援
- 姿勢保持

認知・行動

☆ねらい☆

- ・ 認知の発達と行動の習得
- ・ 空間、時間、数等の概念形成の習得
- ・ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

☆具体的な支援内容☆

- ・ 感覚や認知の活用

→視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促すために制作活動(例：折り紙等)や身体遊びを学習プログラムとして取り入れる。

- ・ 知覚から行動への認知過程の発達

→環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。子どもの特性に合った環境調整ならびに関わりを意識して支援する。

- ・ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

→物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように机上であれば認知教材を活用し取り組む。

- ・ 数量、大小、色等の習得

→個別課題や集団活動を通じて、子どもの発達段階に対応した数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。

- ・ 認知の偏りへの対応

→認知の特性を把握し、情報を適切に処理できるような環境調整や支援者の関わり方の指導や調整を行う。

- ・ 行動障害への予防及び対応

→感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害に対して事前に環境調整など予防策を講じ、適切行動の獲得に向けた適切な支援を行う。

【プログラム例】

- ・ 学習支援（色・数字・時計・お金等）
- ・ 四季を感じられるような創作活動
- ・ 適切な行動の形成、認知の偏りへの配慮（環境設定、小集団でのゲーム等）

言語・コミュニケーション

☆ねらい☆

- ・言語の形成と活用
- ・言語の受容及び表出
- ・コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ・コミュニケーション手段の選択と活用

☆具体的な支援内容☆

- ・言語の形成と活用

→具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。

- ・言語の受容と表出

→話し言葉や文字・記号を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容したり表出したりすることができるよう支援する。

- ・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

→個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。

- ・指差し、身振り、サイン等の活用

→子どもの発達段階に対応するコミュニケーション手段(例：指差し、身振り、サイン等)を選定し、環境の理解と意思の伝達ができる機会を積み重ねていけるように環境及び関わり方の調整を実施する。

- ・読み書き能力の向上のための支援

→障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

- ・コミュニケーション機器の活用

→各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。

- ・手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

→手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

【プログラム例】

- ・あいさつや日常会話の習得
- ・カード等を使用したコミュニケーション支援
- ・読み書き能力の向上のための支援

人間関係・社会性

☆ねらい☆

- ・他者との関わり(人間関係)の形成
- ・自己の理解と行動の調整
- ・仲間づくりと集団への参加

☆具体的な支援内容☆

- ・アタッチメント(愛着行動)の形成

→人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。

- ・模倣行動の支援

→遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

- ・感覚運動遊びから象徴遊びへの支援

→子どもの発達段階に応じた感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びの環境を整え、その上で、次の発達段階として見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びへ促すための関わり方を提案し支援者が実践していく中で、徐々に社会性の発達を支援する。

- ・一人遊びから協同遊びへの支援

→発達段階に応じた支援者の関わり方を提案し、周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊び、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守ったりして遊ぶ協同遊びを通して、社会性の発達を支援する。

- ・自己の理解と行動の調整

→大人を介在して自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるようになるための支援を行う。

- ・仲間づくりと集団への参加

→集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援を行う。また、相互理解や互いの存在を認め合いながら仲間づくりにつながるように支援する。

【プログラム例】

- ・レクリエーションでの集団遊び
- ・公共施設の利用
- ・地域の催しやイベントの参加
- ・SST
- ・職業訓練・作業訓練
- ・畑作業（野菜の栽培、収穫）